

茨城の教育

茨城県高等学校教職員組合
310-0853 茨城県水戸市平須町表原1-9-3
telephone 029-305-3075
facsimile 029-305-3317
/www.mito.ne.jp/~iba-kou/

茨高教組中央委員会

12月3日(土) 10:00~16:00 霞ヶ浦文化体育会館(「水郷体育館」)
土浦市大岩田1051 ☎029-823-4811

大地震への備えは充分か? 危険校舎改築・耐震補強の実態



ベランダのコンクリート劣化(取手二高、本年7月)

補強工事の遅れで被害拡大

県教育委員会財務課が、東日本大震災前に立案した今年度の「耐震補強事業」では、9校12棟の工事が計画されていた(日立工業、太田一、佐竹、水戸農業〔体育館・寄宿舎・寄宿舎食堂管理室〕、勝田、東海、勝田養護、高萩、友部、潮来〔管理教室棟〕、以上総額約12億円)。このうち、水戸農業の体育館と寄宿舎、潮来の管理教室棟は大震災で大きな損傷を受けた。せめてもう1年補強工事が早ければ避けられた損失である。

同事業では「実施設計」として20校26棟が計上され、来年度工事がおこなわれる(鉾田農業、水戸南、鉾田二、常北、大洗、水戸商業、水戸二、日立一、日

立二、多賀、太田二、佐竹、勝田、東海、緑岡、高萩清松、海洋、真壁、以上総額約1億円)。

工事・設計とも県北の学校が多いのは、「首都直下地震」を想定して県南部から耐震補強工事を実施してきたため、県北部への対応が大幅に遅延したことによる。

「災害復旧事業」で水戸農業と水戸二の校舎を改築

県の9月補正予算に、大きな被害を受けた学校施設等の災害復旧事業費約16億円が盛り込まれた。「改築設計」として、水戸二高の校舎、水戸農業の校舎及び寄宿舎食堂棟が予算化された。2013年度完成を目指して改築されることになり、その間の仮設校舎が今年度中に設置さ

れる(2校で約3億円)。

なお、耐震診断では、水戸二のIs値は0.26、水戸農業は校舎が0.19、体育館が0.23といずれも「震度6強の地震で、倒壊し又は崩壊する危険性が高い」と判定された(基準値は0.6)。東日本大震災で崩壊しなかったのは幸いであった。

「災害復旧工事」は、次の24校で今年度中に実施(開始)される。高萩、鉾田二、潮来、内原養護、友部養護、太田一、水戸南、那珂、常北、佐竹、水戸商、下館二、鉾田一、水戸桜ノ牧、磯原郷英、真壁、水戸一、水戸三、太田二、佐和、鹿島灘、下妻一、石下紫峰、大洗、伊奈。

ただし、大震災による損壊で、体育館が使用不能に陥っている水戸商業、那珂、水戸農業、水戸桜ノ牧、水戸二、太田一などでは、詳細な設計のうえ国の査定を受けなければならないため、工事着工は早くても今年度末ごろになるとされている。水戸農業と水戸二高の体育館は「崩壊する危険性が高い」にも関わらず、後回しにしていたのである。体育の授業、学校行事、部活動など様々な日常活動に支障をきたしているこれらの学校に対して、県としての特別な支援が必要である。

「災害復旧事業」では、耐震補強設計が今年度実施の20校に

県人事委員会が公務員賃金引き下げ勧告

茨城県人事委員会は10月24日、知事及び県議会議長に対して、月例給の引き下げと一時金据え置きを主たる内容とする職員の給与等に関する報告及び勧告をおこなった。

公務員給与の引き下げは、民間労働者の賃金、地域経済に悪影響を与えることが懸念される。茨高教組は、地公労に結集し、茨城県内の地方公務員の生活を守るため、賃金・諸手当の改善、労働条件の改善に向けて茨城県当局との交渉をおこなう。

勧告の概要は以下のとおり。

- 月例給
- ・中高年齢層の給料表の引き下げ(平均▼0.25%。行政職43.5歳で月額▼945円、年額▼

- 15,000円)
- 期末・勤勉手当(ボーナス)
- ・改定見送り(3.95月)
- 減額調整
- ・月例給、ボーナスの減額分については、12月の期末手当で減額調整
- 「現給保障」
- ・廃止見送り。
- 若年・中堅層を対象とする昇級回復
- ・給与構造改革期間中に抑制されてきた昇給のうち、2009年4月1日に抑制を受けた昇給を1号給回復。(2012年4月1日実施)
- 定年延長
- ・今後の国の動向等を注視し、定年延長制度導入を見据えて、総合的にとりくむ必要がある。

参考 国家公務員に関する人事院勧告

- ・2013年度から2025年度に向けて、3年に1歳ずつ65歳まで段階的に定年年齢引き上げ。
- ・60歳超の年間給与を60歳前の70%水準に設定。
- 育児休業取得者に係る期末手当支給割合の見直し
- ・短期間(1カ月以下)の取得者の期末手当支給割合を減じない措置。
- 超過勤務の縮減
- ・管理監督者による適切な管理、指導の実施。業務の必要性の再検討。
- 職員の健康保持
- ・メンタルヘルス対策と職員の健康保持のためのとりくみのさらなる強化。■

加えて、13校で実施される(鉾田農業、水戸南、常北、大洗、水戸商業、水戸二、海洋、緑岡、多賀、高萩清松、真壁、水戸養護、石岡一、石岡商業)。耐震化のスピードが速まることになる。

また、校地等整備が6校で実施される(日立二、日立商業、水戸二、土浦一、下館二、下妻一、友部養護)。

県立学校の耐震化率は58%
2011年4月1日現在の「県

有施設の耐震状況」が土木部建築指導課のウェブサイトで10月になってやっと公表された。耐震診断の対象である建物等の診断はこれですべて終了し、いよいよ2015年度までに耐震化100%を目指して補強や改築が実施される。

県有施設の耐震化率を見ると、病院・診療所100%、社会福祉施設等67.5%、県営住宅100%、公共の事務所等96.8%(全体で81.9%)となっており、

学校の57.7%は、際だって低い。橋本県政の教育への姿勢が透けて見える。ここで、「震度6強の地震で倒壊又は崩壊する危険性が高い建物」のある学校をあげておこう。水戸二(管理普通教室棟等、体育館)、緑岡(格技場)、水戸商業(管理普通教室棟等)、水戸南(体育館)、盲学校(体育館)、水戸養護学校(管理特別教室棟等)、日立二(普通特別教室棟等)。

【2面右につづく】

全村避難で静まり返る山里 福島・飯館村訪問記



福島第一原発事故の深刻な影響。現場になるべく近いところから現実を見つめたいと、組合員の栗又衛さん（石岡一高分会）が線量計とカメラを持って常磐自動車道を北に向かった。以下はその報告。

警戒区域間近にコンビニあり

9月10日、警戒区域（福島第一原発から20km圏内）目前の広野インターチェンジで常磐自動車道を降り（その先は通行禁止）、国道6号線を北に向かった。

警戒区域から2kmほど手前のコンビニに立ち寄ったところ、白い防護服を着た原発作業員に出会い、事故を実感することになった。店内には3歳くらいの

女の子を連れた母親がおり、思わず目を疑った。この時の放射線量は0.48μSv/hであった。

国道6号も常磐道も封鎖中

国道6号線は警戒区域入口で検問がおこなわれ、当然のことながら一般人の立ち入りは禁止されていた（写真左）。しかし、その他の車両の出入りは頻繁に行われていた。この場所での放射線量は0.777μSv/hであった。

意外に低いなと思ったのは慣れのせいだろう。

静かな山里で出会うはパトカーばかり

ここからいったんいわき市まで南下し、阿武隈山地を北上する国道399号線に入った。原発事故以降ニュースでよく耳にする、汚染濃度の高い川内村、田村市、葛尾村、浪江町、飯館村へと続く道である。いつもの年であれば、これから迎える収穫の秋に、大勢の観光客で賑わうであろう自然豊かな山里である。

緊急時避難準備区域（30km圏）、計画的避難区域（年間の積算放射線量が20mSvを超える恐れがある地域）が大半のこの道沿いでは普通の人も車もほとんど見かけることはなかった。多く見かけたのは、巡回するパトカーのほか、「防犯カメラによる監視中」の看板であった。

線量計が振り切れた
車内で放射線量計を見ながら

【1面校舍耐震化記事つづき】

棟等、体育館）、多賀（格技場）、土浦三（図書館棟）、土浦工業（機械科実習棟、格技場）、古河一（格技場）、古河三（格技場）、総和工業（電子機械科実習棟）、石岡一（実習棟2）、石岡商業（格技場）、鬼怒商業（管理普通教室棟等）、下妻一（格技場）、石下紫峰（格技場、卓球室棟）、佐竹（格技場）、高萩（格技場）、高萩清松（格技場）、磯原郷英（格技場）、友部養護（体育館）、取手一（格技場）、取手二（管理教室棟）、藤代（格技場）、つくば工科（格技場）勝田（格技場）、勝田工業（格技場）、海洋（体育館、格技場）、鹿島（管理普通教室棟等）潮来（格技場）常陸大宮（格技場）、水戸農業（会議室棟、体育館、第1・第2格技場）、下館二（管理棟等）、下館工業（格技場）岩井（格技場）、猿島（格技場）真壁（管理特別教室棟、格技場）、神栖（卓球場）、波崎（格技場）、玉造工業（格技場）、鉾田一（格技場）、鉾田二（体育館）、鉾田

走り続けた。浪江町津島というところで、車を降りて放射線量を測定しようとしたところ、線量計が振り切れてしまった。持参したシンチレーション式線量計は9.999μSv/hまでしか測定することができない。目の前にガソリンスタンドや民家がある道路際である。周囲には人っ子ひとりいない。慌てて車に乗り込んでその場を離れた。このあと、飯館村に向かう山中でも線量計が振り切れ続け、恐怖の山岳ドライブとなった。

農業（実習棟、体育館、格技場）、茨城東（格技場）、大洗（体育館）、常北（体育館）大子清流（体育実習棟）、霞ヶ浦聾（寄宿舎）。

改築決定した石岡一高

本紙の昨年5月25日号（第1014号）の記事（「生徒の命と安全を脅かす危険校舎を放置するな」）で、「震度6強で崩壊する危険性が高い校舎」の例としてあげた石岡一高の管理普通教室棟は、今年度から3年計画での改築（約12億円）が決定し、基本設計に取りかかる段階になっている。

敷地が狭いためにやむをえず「現在地での改築」となったが、仮設校舎の設置（約2億円）などの関連で、部室棟の改築（約5千万円）も実現することになり、職員・生徒とも心待ちにしている。

危険な老朽校舎の改築を進めよ

昨年度の時点で、老朽化と構造上の問題で改築が必要とされていた管理普通教室棟のある学

校は、石岡一、水戸農業、取手二であった。水戸農業は震災で使用禁止となり、今年度から3年間での改築が決まった。取手二高（1面写真）は、来年度からの3年間での改築を予定していると見られる。

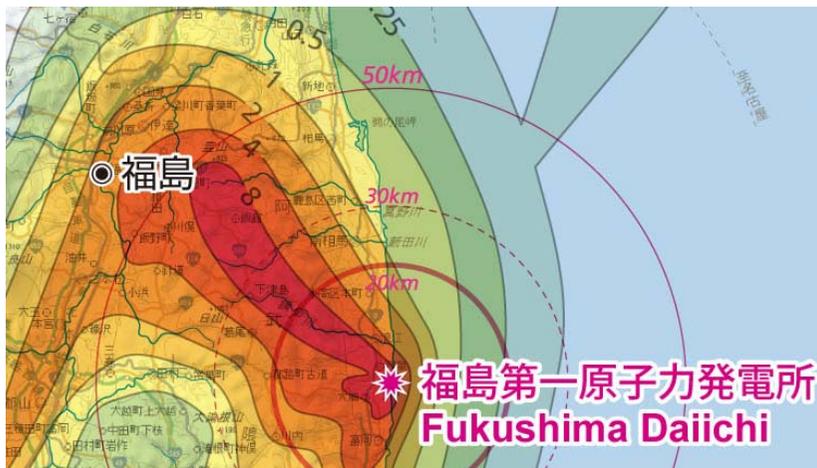
現在、土浦三高と水海道一高が来年度完成の予定で改築工事中であるが、7年前の県の資料をみると、1970年以前に建築された校舎を「改築対象」としていた。本来はもっと多くの校舎を改築すべきである。「耐震補強」で当座を凌ごうとしているのであろうが、老朽校舎の計画的な改築を進めなければならない。7年前に改築対象になっていてまだ校舎の改築予定のない学校をあげておく。

大子一、石岡商業、取手一、真壁、取手二、北茨城、霞ヶ浦聾、海洋、盲学校、水戸三、那珂湊、潮来、下妻一、岩井、古河三、太田一、水戸工業、鉾田農業、境、友部養護、鉾田一、土浦一、総和工業、下館二。■

できない数値である（写真右）。6千人を超える村民の大半が避難しているのも当然である。

しかし、飯館村内で営業しているガソリンスタンドがあった。この放射線量の中で営業しているのは、30歳代くらいの夫婦だった。

このあと飯館村から川俣町、二本松市、郡山市と中通りを通過して茨城に戻ったが、この地域でも線量計は、かなり高い値を示した。福島の人たちの今後を思わないではいられなかった。■



http://kipuka.blog70.fc2.com/blog-entry-418.html 単位：μSv/h